

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5587827号
(P5587827)

(45) 発行日 平成26年9月10日 (2014. 9. 10)

(24) 登録日 平成26年8月1日 (2014. 8. 1)

(51) Int. Cl.	F 1
A 4 7 B 81/06 (2006. 01)	A 4 7 B 81/06 D
A 4 7 B 97/00 (2006. 01)	A 4 7 B 97/00 M

請求項の数 3 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2011-113191 (P2011-113191)	(73) 特許権者	000005821
(22) 出願日	平成23年5月20日 (2011. 5. 20)		パナソニック株式会社
(65) 公開番号	特開2012-239681 (P2012-239681A)		大阪府門真市大字門真1006番地
(43) 公開日	平成24年12月10日 (2012. 12. 10)	(74) 代理人	100087664
審査請求日	平成25年2月14日 (2013. 2. 14)		弁理士 中井 宏行
		(72) 発明者	大岸 昌弘
			大阪府門真市大字門真1048番地 パナソニック電工株式会社内
		審査官	蔵野 いづみ
		(56) 参考文献	特開2009-005952 (JP, A)
			実開昭63-110244 (JP, U)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 収納装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

背板及び四周内壁によって区画され、前方に向けて開口する収納部と、
前記背板との間に配線用空間を隔てて、該背板に対向するように配設されるとともに、
前記収納部の内壁に回動自在に連結された仕切板と、を備えており、
前記仕切板は、その四周端面が前記収納部の前記四周内壁との間に少許の空隙を隔てて
近接配置されるように形成され、かつ、回動支点となる端部とは異なる側の端部に配線用
の切欠部を設けた構成とされていることを特徴とする収納装置。

【請求項 2】

請求項 1 において、
前記仕切板は、上端部側が前記収納部の内壁に回動自在に連結され、前記切欠部を下端
中央部に設けていることを特徴とする収納装置。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 において、
複数の前記収納部を並べるように設け、隣接する収納部の前記配線用空間を連通させる
配線用開口を設けていることを特徴とする収納装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、前方に向けて開口する収納部を有した収納装置に関する。

10

20

【背景技術】

【0002】

従来より、前方に向けて開口する収納部を有した収納装置が知られている。このような収納装置の収納部に、電気機器や電子機器、通信機器等の配線を要する物品を収納する場合には、その配線の処理が問題となる。例えば、下記特許文献1では、前向きに開口した箱形本体の奥部に、背板と平行な仕切板を、背板との間に配線空間を設けて配置した収納家具が提案されている。この収納家具では、仕切板の左右両側部や左右中間部に、上下に長く延びる配線穴を形成した構造とされている。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0003】

【特許文献1】特開平11-187947号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記特許文献1に記載された収納家具では、背板との間の配線空間への配線の引き込み作業等を行うために配線穴を大きく形成する必要があるため、該配線穴が目立ち易くなり、更なる改善が望まれていた。

【0005】

本発明は、上記実情に鑑みてなされたものであり、配線作業を容易に行い得るとともに見栄えを向上し得る収納装置を提供することを目的としている。

20

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本発明に係る収納装置は、背板及び四周内壁によって区画され、前方に向けて開口する収納部と、前記背板との間に配線用空間を隔てて、該背板に対向するように配設されるとともに、前記収納部の内壁に回動自在に連結された仕切板と、を備えており、前記仕切板は、その四周端面が前記収納部の前記四周内壁との間に少許の空隙を隔てて近接配置されるように形成され、かつ、回動支点となる端部とは異なる側の端部に配線用の切欠部を設けた構成とされていることを特徴とする。

【0007】

30

本発明においては、前記仕切板を、上端部側が前記収納部の内壁に回動自在に連結されたものとし、前記切欠部を下端中央部に設けたものとしてもよい。

また、本発明においては、複数の前記収納部を並べるように設け、隣接する収納部の前記配線用空間を連通させる配線用開口を設けたものとしてもよい。

【発明の効果】

【0008】

本発明に係る収納装置は、上述のような構成としたことで、配線作業を容易に行うことができることに見栄えを向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

40

【図1】本発明の一実施形態に係る収納装置の一例を模式的に示す一部省略概略側面図である。

【図2】同収納装置の概略正面図である。

【図3】同収納装置の概略斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下に本発明の実施の形態について、図面に基づいて説明する。

なお、図1では、一方の側板の図示を省略している。

また、以下の実施形態では、収納装置の収納部に対面した使用者を基準として、手前側を前方、その逆側を後方とし、また、その状態を基準として、上下方向及び左右方向等の

50

方向を原則的に説明する。

【0011】

図1～図3は、本実施形態に係る収納装置の一例について説明するための概念的な説明図である。

本実施形態に係る収納装置1は、前方に向けて開口する収納部2を有している。図例では、上下に並べるように複数の収納部2を設けた収納装置1を例示している。

収納装置1は、背板10と、左右の側板14、14と、天板15と、底板16とを備え、これらによって前方に向けて開口する箱形状とされ、本実施形態では、両側板14、14間に架け渡されるように設けられた棚板17によって上下の収納部2を区画している。図例では、二枚の棚板17、17を設け、これらによって上下に3つの収納部2を区画形成した例を示している。

10

【0012】

これら背板10、両側板14、14、天板15、底板16及び棚板17は、合板やLVL（単板積層材）等の木質積層板、パーティクルボード等の木質ボード、またはインシュレーションボードやMDF（中密度繊維板）等の木質繊維板などの木質系材料を板状に加工した基材に、適宜、合成樹脂シートや突板等の表面化粧シートを貼着した構成とされている。

または、合成樹脂系材料に、木粉や無機フィラー、相溶化剤、着色剤などを所定の含有割合で含有させた木粉・プラスチック複合材（WPC）を板状に加工した基材に、上記同様、表面化粧シートを貼着したものとしてもよい。これら各基材は、適宜、組み合わせて積層し、表面化粧シートを貼着するようにしてもよい。

20

なお、上記基材としては、木質系材料から形成されたものに限られず、合成樹脂系材料や金属系材料等から形成されたものとしてもよい。

【0013】

収納部2は、左右の側壁11、11、天壁12及び底壁13からなる四周内壁と、当該収納装置1の背板10とによって区画されている。

本実施形態では、収納装置1の左右の側板14、14の対向する両内側面が収納部2の左右の側壁11、11を構成している。また、収納装置1の天板15または棚板17の下面が収納部2の天壁12を構成し、収納装置1の底板16または棚板17の上面が収納部2の底壁13を構成している。このような収納部2の四周内壁は、当該収納装置1を構成する種々の部材によって構成され、その他、縦仕切板や地板等によって構成されるものとしてもよい。

30

【0014】

また、収納装置1には、収納部2に収納される電気機器や電子機器、通信機器等の物品6の配線7が接続されるコンセント5が設けられている。図例では、最下段の収納部2を区画する背板10の部位に、コンセント5を設けた例を示している。このコンセント5としては、建物の壁体内等を通じて配設された電源コードやLANケーブル、光ファイバー、電話回線、テレビ回線等の配線が接続され、これらに応じて各種コンセントやモジュラー、端子等の接続部が設けられたマルチメディア型のものとしてもよい。

収納部2に収納される配線7を要する物品6としては、テレビやチューナー、再生・録画機器、オーディオ機器、湯沸かし器、炊飯器等の電気機器が挙げられる。また、携帯電話や携帯情報端末、携帯ゲーム機器、携帯オーディオ機器、デジタルカメラ等の電子機器が挙げられる。また、電話機やファクシミリ等の通信機器、コンピューター等の情報機器が挙げられる。その他、種々の物品を収納することができる。

40

【0015】

また、収納装置1は、背板10との間に配線用空間3を隔てて、背板10に対向するように配設されるとともに、収納部2の内壁に回動自在に連結された仕切板20を備えている。本実施形態では、仕切板20の上端部側を収納部2の内壁に回動自在に連結した例を示している。また、本実施形態では、複数の収納部2のそれぞれに仕切板20を設けた例を示している。

50

背板 10 と仕切板 20 との間に設ける配線用空間 3 の前後寸法は、仕切板 20 を背板 10 と略平行とした状態（回動させていない状態）で、配線 7 の引き込みや余長部分の収容が可能な寸法とすればよく、例えば、10 mm ～ 30 mm 程度としてもよい。

【0016】

仕切板 20 は、略矩形平板状とされており、左右側端部の上端側にそれぞれ固定された連結具 25、25 によって、収納部 2 の対向する左右の側壁 11、11 を構成する左右の側板 14、14 に回動自在に連結され、支持されている。

連結具 25 は、内方側（収納部 2 の左右方向中心側）に向けて開口し、仕切板 20 の側端部が嵌め込まれる断面略コ字状（U 字状乃至は C 字状）の挟持片部 26 と、外方側に向けて突出する軸部 27 とを備えている。この連結具 25 の軸部 27 が側板 14 に設けられた軸受穴 18 に挿入され、回動自在に支持されている（図 2 参照）。 10

【0017】

この仕切板 20 は、その四周端面 21、21、22、23 が収納部 2 の四周内壁 11、11、12、13 との間に少許の空隙を隔てて近接配置されるように形成されている。つまり、収納部 2 の内周寸法（上下寸法及び左右寸法）よりも仕切板 20 の外周寸法（上下寸法及び左右寸法）を僅かに小さく形成している。この仕切板 20 を背板 10 と略平行とした状態では、仕切板 20 の左右の側端面 21、21 が収納部 2 の左右の側壁 11、11 に近接対面して配置される。また、この状態では、仕切板 20 の上端面 22 が収納部 2 の天壁 12 に近接対面し、仕切板 20 の下端面 23 が収納部 2 の底壁 13 に近接対面して配置される。 20

【0018】

上記空隙の寸法は、仕切板 20 の回動を許容するクリアランスとして適宜の寸法とすればよく、連結具 25 の構造や仕切板 20 の端部形状等に応じて比較的に小さい寸法としてもよい。例えば、0.5 mm ～ 5 mm 程度の寸法としてもよい。なお、この空隙寸法を小さくする観点等から、仕切板 20 の上下の端部の前後の縁部に、C 面取り形状や R 面取り形状の面取部を形成するようにしてもよい。また、連結具 25 の挟持片部 26 を受け入れる凹所を左右の側端部に設けるようにしてもよい。さらには、このような空隙を設ける態様に代えて、仕切板 20 の四周端部に、圧縮変形や弾性変形し得る各種フォーム系材料や各種ゴム系乃至はエラストマー系材料等からなる隙間遮蔽部材を添設し、収納部 2 の四周内壁に当接させる態様としてもよい。 30

【0019】

また、仕切板 20 には、配線用の切欠部 24 が設けられている。本実施形態では、回動支点となる端部側とは異なる側の端部として、下端中央部に切欠部 24 を設けた例を示している。図例では、左右に長尺状に形成された切欠部 24 を例示している。

この切欠部 24 の短手（上下）寸法は、配線 7 の挿通が可能な寸法とすればよい。また、切欠部 24 の寸法を、当該切欠部 24 に手指の差し入れが可能な寸法としてもよい。これによれば、当該切欠部 24 を配線用の他、仕切板 20 を回動させる際に、手掛部としても利用することができ、別途、把手等を設けないようにすることも可能となり、簡易な構造とできる。

なお、仕切板 20 は、上記同様の基材に表面化粧シートを貼着したものとしてもよい。 40

【0020】

また、収納装置 1 には、隣接する収納部 2、2 の配線用空間 3、3 を連通させる配線用開口 4 が設けられている。本実施形態では、背板 10 と棚板 17 の後端部との間に配線用開口 4 を設けた例を示している。図例では、棚板 17 の後端面が左右の全長に亘って背板 10 の前面から離間した位置となるように棚板 17 を配設し、これにより左右に長尺状の配線用開口 4 を形成した例を示している。この配線用開口 4 の短手（前後）寸法は、配線 7 の挿通が可能な寸法とすればよい。なお、配線用開口 4 としては、このような例に限られず、棚板 17 の適所に切欠部を設けたり、配線孔を設けたりして配線用開口を構成するようにしてもよい。

【0021】

上記のように上端側が回動支点として収納部 2 の内壁に連結された仕切板 20 は、常時は、図 1 の上二段の収納部 2、2 に配設された仕切板 20、20 のように、その自重により、背板 10 と略平行とされる。一方、図 1 の最下段の収納部 2 に配設された仕切板 20 のように、上端側を回動支点として、下端側を手前側に向けて移動させるように回動させることで、仕切板 20 と収納部 2 の底壁 13 との間に大きく空間が形成される。これにより、配線用空間 3 の手前側が大きく開放される。

【0022】

上記構成とされた本実施形態に係る収納装置 1 によれば、配線作業を容易に行うことができるのとともに見栄えを向上させることができる。

つまり、収納部 2 の背板 10 と仕切板 20 との間の配線用空間 3 に、収納部 2 に収納された物品 6 の配線 7 の余長部分等を見栄え良く納めることができる。

10

また、仕切板 20 は、収納部 2 の内壁に回動自在に連結されているので、この仕切板 20 を回動させることで、配線用空間 3 の手前側が大きく開放され、配線作業を容易に行うことができる。また、これにより、仕切板 20 と収納部 2 の内壁との間に配線作業用の隙間を大きく形成したり、仕切板 20 に配線作業用の穴等を大きく形成したりする必要がなく、見栄えを向上させることができる。つまりは、この仕切板 20 を、背板 10 と略平行とした状態では、当該仕切板 20 が収納部 2 の背板のような外観を呈することとなり、見栄えを向上させることができる。

【0023】

さらに、本実施形態では、仕切板 20 の四周端面 21、21、22、23 が収納部 2 の四周内壁 11、11、12、13 との間に少許の空隙を隔てて近接配置されるように仕切板 20 を形成し、また、配線用の切欠部 24 を仕切板 20 に設けている。従って、仕切板 20 を背板 10 と略平行とした状態では、仕切板 20 の四周端面 21、21、22、23 が収納部 2 の四周内壁 11、11、12、13 に近接し、例えば、四周内壁との間に配線用の隙間を設けるようなものと比べて、見栄えをより向上させることができる。

20

また、このように仕切板 20 の四周端面 21、21、22、23 を収納部 2 の四周内壁 11、11、12、13 に近接させた状態でも、収納部 2 に収納された物品 6 の配線 7 を、仕切板 20 の切欠部 24 を介して配線用空間 3 に引き込ませ、納めることができる。

【0024】

さらにまた、本実施形態では、仕切板 20 の上端部側を収納部 2 の内壁に回動自在に連結し、切欠部 24 を仕切板 20 の下端中央部に設けている。従って、上端部側を回動支点として仕切板 20 の下端側を手前側に向けて移動させるように回動させることで配線作業を容易に行うことができる。

30

また、上端側を回動支点としているので、常時は仕切板 20 が自重によって背板 10 と略平行となるように維持される。従って、回動を規制するストッパー等を設ける必要がなく、簡易な構造とすることができる。

さらに、切欠部 24 を仕切板 20 の下端中央部に設けているので、収納部 2 に収納された物品 6 によって、切欠部 24 が目立ち難くなり、見栄えを向上させることができる。

【0025】

さらに、本実施形態では、複数の収納部 2 を並べるように設け、隣接する収納部 2、2 の配線用空間 3、3 を連通させる配線用開口 4 を設けている。従って、複数の収納部 2 のそれぞれに収納された物品 6 の配線 7 を、配線用空間 3 及び配線用開口 4 を利用して、見栄え良く効率的に配線することができる。

40

さらにまた、収納装置 1 に配線 7 が接続されるコンセント 5 を設けているので、配線用空間 3 及び配線用開口 4 を利用して、各収納部 2 に収納された物品 6 の配線 7 をコンセント 5 に接続することができる。従って、各収納部 2 に収納された物品 6 の配線 7 が収納装置 1 の外部に露出せず、より見栄えを向上させることができる。

【0026】

なお、本実施形態では、複数の収納部 2 のそれぞれの内周寸法を略同一寸法とした例を示しているが、異なる寸法とされた収納部 2 を並べるように設けたものとしてもよい。こ

50

の場合は、仕切板 2 0 の外周寸法を各収納部の内周寸法に応じて適宜の寸法とすればよい。

また、本実施形態では、上下に複数の収納部 2 を並べるように設けた例を示しているが、左右に複数の収納部 2 を並べるように設けたものとしてもよい。この場合は、左右に収納部を仕切る縦仕切板を設けるようにしてもよい。また、この場合は、縦仕切板の後端部と背板との間に、隣接する収納部 2, 2 の配線用空間 3, 3 を連通させる配線用開口 4 を設けてもよい。または、配線用開口 4 として、縦仕切板に切欠部や配線孔等を設けたりする態様としてもよい。さらには、複数の収納部 2 を上下及び左右に並べるように設けた収納装置 1 としてもよい。

【0027】

10

さらに、収納装置 1 の最上段の収納部 2 の配線用空間 3 に連通する配線用開口を、天板 1 5 に設けるようにしてもよい。これによれば、天板 1 5 に載置された物品の配線を天板 1 5 の配線用開口を介して収納装置 1 の内部の配線用空間 3 に見栄え良く配線することができる。

さらにまた、本実施形態では、隣接する収納部 2, 2 の配線用空間 3, 3 を連通させる配線用開口 4 を設けた例を示しているが、このような配線用開口 4 を設けないようにしてもよい。

また、本実施形態では、収納装置 1 にコンセント 5 を設けた例を示しているが、このようなコンセント 5 を設けないようにしてもよい。この場合は、収納装置 1 の外部に配線 7 を引き出すための開口を背板 1 0 や側板 1 4 等に設けるようにしてもよい。

20

【0028】

さらに、本実施形態では、収納装置 1 のそれぞれの収納部 2 に仕切板 2 0 を設けた例を示しているが、複数の収納部 2 のうちの少なくとも一つに仕切板 2 0 を設けた態様としてもよい。さらには、このように複数の収納部 2 を備えた収納装置 1 に限られず、単一の収納部 2 を備えた収納装置 1 としてもよい。

さらにまた、収納部 2 の前方開口を開閉する開閉扉を設けた収納装置 1 としてもよい。

【0029】

また、本実施形態では、仕切板 2 0 の下端中央部に切欠部 2 4 を設けた例を示しているが、下端角部に切欠部を設けたり、側端部に切欠部を設けたりしてもよい。

さらに、本実施形態では、仕切板 2 0 の上端部側を収納部 2 の内壁に回動自在に連結した例を示しているが、下端部側を収納部 2 の内壁に回動自在に連結した態様としてもよく、左右の側端部の一方側を収納部 2 の内壁に回動自在に連結した態様としてもよい。この場合は、必要に応じて仕切板 2 0 の回動を規制するストッパー等を設けるようにしてもよい。また、左右の側端部の一方側を収納部 2 の内壁に回動自在に連結する場合は、収納部 2 の対向する天壁 1 2 及び底壁 1 3 に仕切板 2 0 を回動自在に連結するようにしてもよい。また、この場合は、回動支点とは異なる側の側端部に切欠部を設けるようにしてもよい。

30

【0030】

さらにまた、本実施形態では、仕切板 2 0 の四周端面が収納部 2 の四周内壁との間に少許の空隙を隔てて近接配置されるように仕切板 2 0 を形成し、また、配線用の切欠部 2 4 を仕切板 2 0 に設けた例を示しているが、このような態様に限られない。例えば、このような切欠部を設けずに、仕切板 2 0 の回動支点とは異なる側の端部の端面等と収納部 2 の内壁との間に配線用の隙間等を設けた態様としてもよい。この場合は、該配線用隙間の幅寸法を、配線 7 の挿通が可能な寸法とすればよい。

40

【0031】

また、本実施形態では、仕切板 2 0 を収納部 2 の内壁に回動自在に連結する連結具 2 5 として、挟持片部 2 6 と軸部 2 7 とを備えたものを例示しているが、このような態様に限られない。例えば、仕切板 2 0 側に軸受穴を設け、この軸受穴に挿入される軸部を収納部 2 の内壁側に設けるようにしてもよい。または、蝶番等によって仕切板 2 0 を収納部 2 の内壁に回動自在に連結する態様としてもよい。この場合は、仕切板 2 0 の上端部と収納部

50

2 の天壁 1 2 とを蝶番等によって連結したり、仕切板 2 0 の下端部と収納部 2 の底壁 1 3 とを蝶番等によって連結したり、仕切板 2 0 の一側端部と収納部 2 の一側壁 1 1 とを蝶番等によって連結したりする態様としてもよい。仕切板 2 0 を回動自在に収納部 2 の内壁に連結する連結手段としては、その他、種々の構造とされたものが採用可能である。

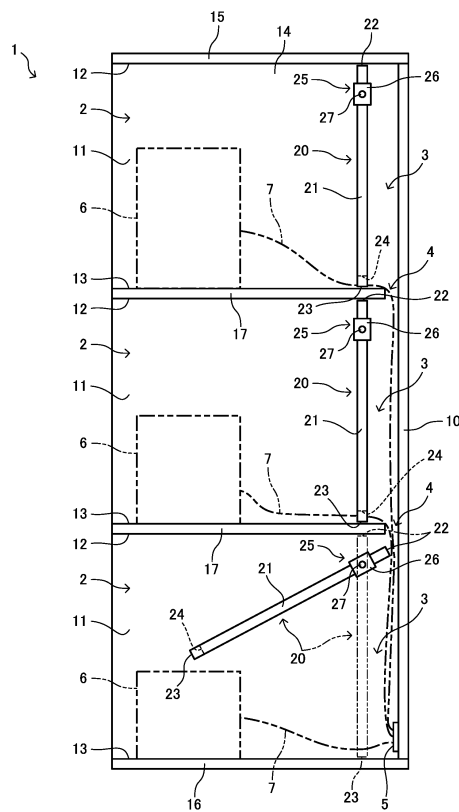
【符号の説明】

【0032】

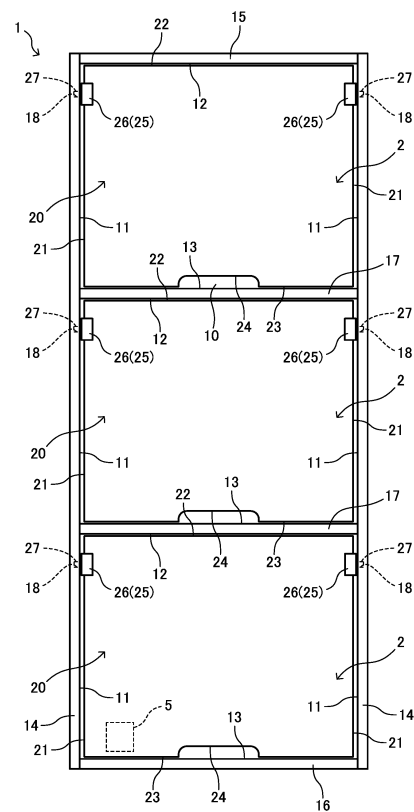
- 1 収納装置
- 2 収納部
- 3 配線用空間
- 4 配線用開口
- 1 0 背板
- 1 1 側壁（内壁）
- 1 2 天壁（内壁）
- 1 3 底壁（内壁）
- 2 0 仕切板
- 2 1 側端面
- 2 2 上端面
- 2 3 下端面
- 2 4 切欠部

10

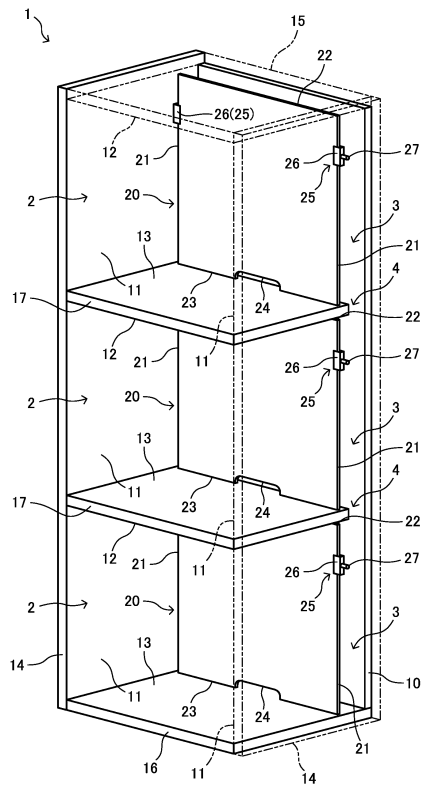
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 4 7 B 8 1 / 0 6

A 4 7 B 9 7 / 0 0